＜幼稚園部会＞

研究主題　「規範意識を育成するための指導内容・方法の研究開発」
－乳幼児期から児童期への一貫した流れを踏まえて－

研究の概要

近年の子どもたちの育ちが気にかかると指摘されることが多い。平成17年1月の中央教育審議会の答申では、子どもの育ちの変化について「基本的な生活習慣の欠如」「コミュニケーション能力の不足」「自制心や規範意識の不足」「運動能力の低下」「小学校生活への不適応」「学びに対する意欲・関心の低下」のような姿が見られると報告している。また、東京都教育委員会は、その教育目標に「互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間」を最初に掲げている。

これらのことから、幼児教育においても、発達段階に即した規範意識を育成するための指導内容とその方法について、研究開発を行うことにした。

幼児期の教育の充実を考えるときに、幼児期の発達のみならず児童期の発達を視野に入れる重要性は様々なところで述べられ、研究及び実践が進められている。また、東京都においても幼稚園と保育所の機能を兼ね備えた幼保一体化施設が生まれ、平成１８年度からは、総合施設の制度も新設されるように、乳幼児期との接続も大きな課題である。これらのことから幼児期の「規範意識」の育成については、乳児期と児童期との関連を踏まえて、指導計画を作成し、教材開発、環境や援助の工夫について研究することが必要と考え、以下の主題を設定した。

Ⅰ　研究の目的

乳幼児期から児童期への一貫した流れを踏まえ、発達段階に即した規範意識の育成に関する指導内容・方法の研究開発を行う。

Ⅱ　研究の方法

- 幼保一体化施設で乳児の遊びや生活の実態をとらえ、乳児からの発達を視野にいれた幼児の発達をとらえる。
- 発達段階に即した規範意識の具体的な育成方法について明らかにする。
- 幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領　同解説道徳編を参考に規範意識を見直し、乳幼児・児童（入門期）の実態を踏まえ、規範意識の育成に関する指導計画を作成する。

Ⅲ　研究の構想

幼児の実態　・基本的な生活習慣の欠如・自制心や規範意識、コミュニケーション能力の不足・小学校生活への不適応・運動能力、学びに対する意欲・関心の低下

幼児教育の課題
① 総合施設の制度創設に向けた乳児期から幼児期への円滑な接続
② 乳児期から小学校入門期までの心の教育や規範意識の育成

道徳教育に関する東京都の動向
・心の東京革命・東京都教育ビジョン
・東京都教育委員会の教育目標
・東京の教育21「16年度～17年度共通研究テーマ」

研究主題
「規範意識を育成するための指導内容・方法の研究開発」－乳幼児期から児童期への一貫した流れを踏まえて－

研究の目的　乳幼児期から児童期への一貫した流れを踏まえた、発達段階に即した規範意識の育成に関する指導内容・方法の研究開発を行う。

研究の内容

『規範意識の育成』
1. 乳幼児期・児童期（入門期）の規範意識の育ち（望ましい姿・幼児像を探る）の共通理解
2. 規範意識をはぐくむための発達段階に応じた指導内容・環境構成・指導体制等の研究開発及び教材開発
3. 乳幼児期から児童期への一貫した流れを実現するために、実践事例を通した環境構成や留意事項の明確化
4. 規範意識をはぐくむ指導計画の作成

0歳児　→　小学校低学年

保育所保育指針・幼稚園教育要領
小学校学習指導要領　同解説道徳編

「規範意識を高める指導」東京都教育庁指導部
「小学校における基本的生活習慣の指導」文部省

Ⅳ　研究の内容

1　規範意識とは

規範意識とは、

「法令などの社会のルールの大切さを理解し、それらを守ろうとする意識」である。

幼児期における規範意識の芽生えとは、

「幼児が人や物など、周囲の環境とかかわる中で、互いに気持ちよく過ごすために、感じ、考えて自分の意志や行動を調整（コントロール）しようとする心のはたらき」ととらえた。

2　規範意識の高まり

（1）規範意識の芽生え

本来、人間は、道徳性の萌芽をもって生まれている。生涯にわたってよりよく生きようとする姿勢を育てるには、大人は子どもの成長発達を考慮し、幼児期から物事の善し悪しの判断や基本的なルール、自由と責任、公共の福祉等について、知らせていく必要がある。

また、規範意識の高まりは「他律から自律への方向をとる」といわれ、乳幼児期や児童期初期には親や大人の規範行動を、そのまま自分の行動規準にする傾向が濃厚であるともいわれている。そのことから、乳幼児期は「規範意識の芽生え」の時期といえる。

乳児期は様々な面において未分化であるが、幼保一体化施設等で、乳児の遊びや生活を見ると、保育士に受け入れられている安心感を基盤に、人とかかわることでの心地よさを十分に味わいながら、人とかかわるときのルールを生活に取り入れた規範意識が芽生えている様子が見られる。

例えば、具体的な姿として０歳児は、家具につかまり立ちをしながら保育士や他の子と「いないいないバー」を繰り返し、人とかかわる心地よさを感じていた。１歳児はおやつの前に全員で集まり、保育士から一人一人名前を呼ばれると、手を挙げながら返事をし、他の乳児が全員呼ばれるまで待ち「いただきます」のあいさつをしてからおやつを食べる姿が見られた。

規範意識の芽生えが見られる乳幼児期は、自ら自分をおさえることは難しく他者からうながされることで自分を律していく。

乳幼児期にこうした体験をすることは、規範意識を身に付ける上で、重要である。

（2）「基本的な生活の習慣」育成の指導と規範意識の高まり

基本的な生活習慣は、人間のあらゆる態度や行動の基本になるものである。子どもの基本的な生活習慣の確立は、自らの生命、健康、安全だけでなく、円滑な人間関係や社会生活をおくる上でも重要な要素である。

本委員会は、これらの乳幼児期の規範意識をとらえるため、平成１５年度東京都教育庁指導部が作成した健全育成推進指導資料を基に、乳幼児期の規範意識を具体的に挙げることを試みた。

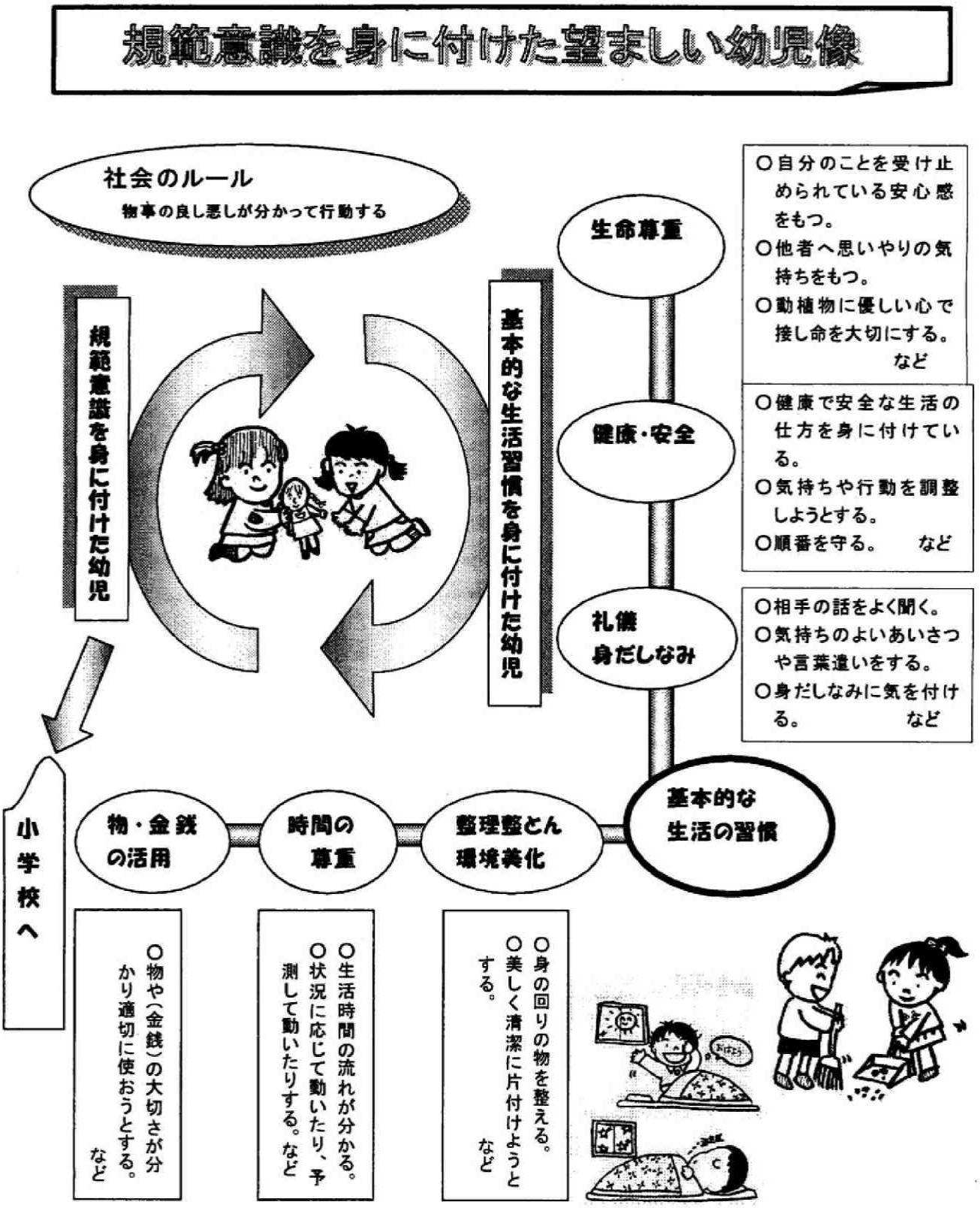
以下は、指導資料が示す規範意識をはぐくむための「基本的な生活の習慣」の視点である。

規範意識をはぐくむための「基本的な生活の習慣」の視点

○生命尊重	**○健康・安全**	**○礼儀・身だしなみ**
○物・金銭の活用	**○時間の尊重**	**○整理整とん・環境美化**

（３）規範意識を身に付けた望ましい幼児像

規範意識を身に付けた望ましい幼児像から、基本的な生活習慣を身に付けた幼児をとらえ、小学校入学を控えた幼児期後半の姿として、次のように位置付けた。

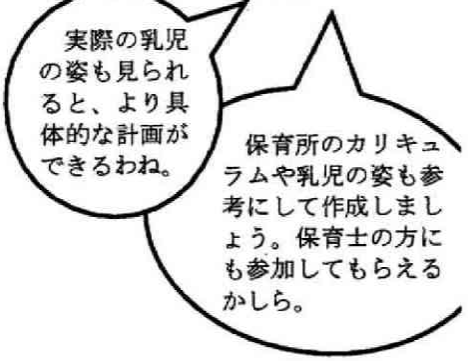


このように、規範意識を身に付けた望ましい幼児像を明らかにしていくにあたり、具体的な指導事例の中から、指導法・環境構成・教師の援助・教材の開発などについて、考察を深めた。６頁からは、３歳児・５歳児の指導事例である。

Ⅴ　規範意識をはぐくむ指導計画の作成について

指導計画作成にあたって
（０歳児から５歳児）

規範意識の内容と保育所保育指針（主に０歳～２歳）、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領のねらいや指導内容の関連について探る。



『規範意識を高める指導―社会のルールを尊重し、遵守する子どもを育てる―』(平成１５年度東京都教育庁指導部　指導資料）と『小学校における基本的生活習慣の指導―望ましいしつけの工夫―』(昭和６０年３月文部省）を参考にして、子どもの発達に応じた規範意識の内容を六つの視点に分類して整理する。

規範意識をはぐくむための六つの視点別に、子どもの実態を踏まえ、年齢別に具体的な子どもの姿から、発達をとらえる。

０～２歳児の乳児期は、幼保一体化施設である品川区立二葉つぼみ保育園（０～３歳児）の指導計画、週案や実際の乳児の遊びや生活の実態から、また３～５歳児の幼児期は、「東京の教育２１研究開発資料」幼稚園部会『個に応じた指導に生かす評価―評価項目の活用―』（平成１５年度）や実態から、さらに６、７歳の小学校入門期は、小学校学習指導要領から、規範意識の発達の具体的な姿をとらえる。

基本的な生活習慣を身に付けていくことが、規範意識の育成につながるのね。

規範意識をはぐくむ指導計画

規範意識をはぐくむ視点	生命尊重	・ 友達と[illegible]が分かれた[illegible]自分の考えを伝えた[illegible]りし[illegible]生していい[illegible]する。
	健康・安全	・ 戸外で[illegible]楽わい[illegible]びのび行動す[illegible] ・ 休息を自分[illegible]など[illegible]意欲を持続させて[illegible]
	礼儀・身だしなみ	・ 汚さないよ[illegible]を付け[illegible]うとしたり、汚し[illegible]ようとしたり[illegible]。
	物・金銭の活用	[illegible]や図書館など地域の公共の[illegible]
	時間の尊重	[illegible]生活のリズムがわかり、状況に応じて動いたり予測して動いたりする。
	整理整とん・環境美化	・ 自分たちが使いやすいように場を決めたり生活の場をみんなで片付けたりする。

年齢別（発達に応じて）にして、規範意識の芽生えをとらえると、乳児期、幼児期、児童期の流れも分かってきそう。

乳幼児期の特性を踏まえた本研究では、基本的生活習慣の「整理整とん」の視点に「環境美化」を加えて、規範意識をはぐくむための視点とした。「整理整とん」の視点に「環境美化」を加えた理由は、幼保一体化施設の乳幼児期の環境が、安心・安全・安定を基盤に整理整とんされているだけでなく、美しく清潔になっていたことに着目したからである。これは、心を豊かにはぐくむことを目指している幼稚園教育においても重要な視点である。

規範意識をはぐくむ指導計画(試案)

		ねらい　2歳児(乳児期後期)	ねらい　5歳児　後期
規範意識をはぐくむ視点	生命尊重	・保育士と安定した関係の中で、他児とかかわり、生活や遊びの中で言葉や感情のやり取りができるようになる。 ・気に入らないことがあると、かんしゃくを起こすこともあるが、保育士が介入することで気持を切り替えることができる。 ・園庭の散歩で身近な草花や小動物に触れると笑顔になり喜ぶ。	・得意なことや自分という存在を学級の皆や教師が認め、受け止められているという安心感をもって生活する。 ・友達と意見が分かれたとき、自分の考えを伝えたり相手に理由を尋ねたりしながら解決していこうとする。 ・友達と意見が分かれても互いに譲り合ったり、条件を出し合ったりして遊びを継続しようとする。 ・一緒に遊んでいる友達の気持ちを察知し、自分のとった行動を振り返り、行動を改めたり相手の気持ちを思いやる言動を見せたりする。 ・高齢者とのかかわりの中で、自分ができることを考えて取り組み、喜んでいただけることに満足感を感じる。 ・身近な動物の世話をしたり、抱いたりする中でどうしたら動物が心地よいかが分かり自分から大切に接する。
	健康・安全	・保育士に言葉がけをされたり、介助されたりしながら自分で最後まで食べようとする。 ・「ウンチでる」と保育士に排泄を知らせるようになる。 ・おむつからパンツに移行し、少しずつトイレの排泄に慣れる。 ・保育士と一緒に足洗い、手洗いをする。 ・安全のための簡単なルールを理解し守ろうとする。 ・順番があることがわかる。 ・走る、跳ぶ、くぐる、ギャロップなど全身を使って遊ぶ。	・友達と一緒に全身を動かし継続的に遊びを楽しむ。 ・戸外で開放感を味わいながらのびのびと行動する。 ・休息を自分でとるなどして意欲を持続させている。 ・友達の危険な行動を止めたり、教師に知らせたりする。 ・避難訓練の際、放送などの指示をよく聞き、理解して行動する。 ・正しい道路の歩き方、横断歩道の渡り方が身に付いている。 ・健康の大切さが分かり、嫌いな食べ物でも少しずつ食べようとする。 ・身長の伸び方や体重の増減に関心がある。 ・必要な道具の使い方を知り、安全に正しく使おうとする。 ・自分がしなければならないことが分かり自分の気持ちや行動を調整しようとする。
	礼儀 身だしなみ	・生活の中で、簡単なあいさつをしたり、返事をしたりする。 ・保育士の読んでくれる絵本を喜んで見聞きする。 ・身の回りの事で自分でできることは自分でしようとする気持ちをもつ。 ・洋服の前後や靴の左右などを保育士の言葉かけで分かり自分で取り組んでいく。 ・鼻汁が出たことや食事の後の汚れなどに気付き、自分で拭こうとする。	・汚さないように気を付けようとしたり、汚したら自分からきれいにしようとしたりする。 ・教師や友達、友達の父母などだれとでもあいさつをし、気持ちいいと感じる。 ・いろいろなあいさつを適切に使う。 ・気持ちよく返事をする。 ・生活に必要な言葉を場面に合わせて使うことで生活をより楽しんだり、友達とのかかわりをおもしろくしたりする。 ・生活や遊びの中で必要な言葉の意味が分かり、そうした言葉を使って、遊びや生活を進める。 ・だれにでも分かるようにはっきりと話す。 ・相手の話を落ち着いて聞き、受け止める。 ・生活の中でリズミカルな言葉を使ったり、言葉の美しさに気付いたりする。 ・高齢者やお客様には丁寧な言葉を使おうとしている。
	物・金銭の活用	・身近にあるものの名前や行動を表す言葉を知り、生活の中で使用する。 ・遊びの中で、物の大小、形、色などの類似点、相違点に気付く。	・公園や図書館など地域の公共の場所を大切に使う気持ちをもつ。 ・道具や製作用具などを必要な分だけ使い適量が分かる。 ・使い終わった紙をリサイクルボックスに入れたり使える紙を分けたりする。 ・お店屋さんごっこで売るものを丁寧に保管したり、並べたりする。
	時間の尊重	・登園、遊び、食事、午睡、降園などの生活時間の流れが分かる。	・園生活のリズムが分かり、状況に応じて動いたり予測して動いたりする。 ・園生活の流れがよく分かり、進んで動くことができる。
	整理整とん 環境美化	・汚れていることときれいなことの区別に気付く。 ・遊んだ後など、片付けようとする。	・自分たちが使いやすいように場を決めたり生活の場をみんなで片付けたりする。 ・散らかっているものを見つけたら、自分で出したものでなくても片付ける。 ・片付けのとき、園内の遊具が出ていないか、きちんと片付けられているかなどを意識して片付ける。 ・自分の持ち物の管理を自分のこととして受け止めて意識して行う。 ・ロッカー、道具箱の中などいつも自分から気付いて整理する。

指導事例１　「宅急便ごっこをする」（使った物を片付ける活動）　　**３歳児７月**

１．幼児の実態（ねらい設定の理由）

３歳児の入園当初、幼児には片付けることの必要感がなく『片付ける』という言葉も「おもちゃ、おうちに返してあげようね。」などの言葉を使うと意味が伝わりやすい。この時期の指導としては、片付けも遊びの一つとして楽しく進んでできるように工夫し、その結果「片付けると気持ち良い」「広くなって嬉しい」などの気持ちを感じられるようにしていくことが大切である。

そのような活動を繰り返す中で、次第に片付けることの必要感を感じ、自分たちでしようとする姿が育ってくると考える。ここでは、３歳児が進んで楽しく片付けに取り組める指導の方法をとりあげる。

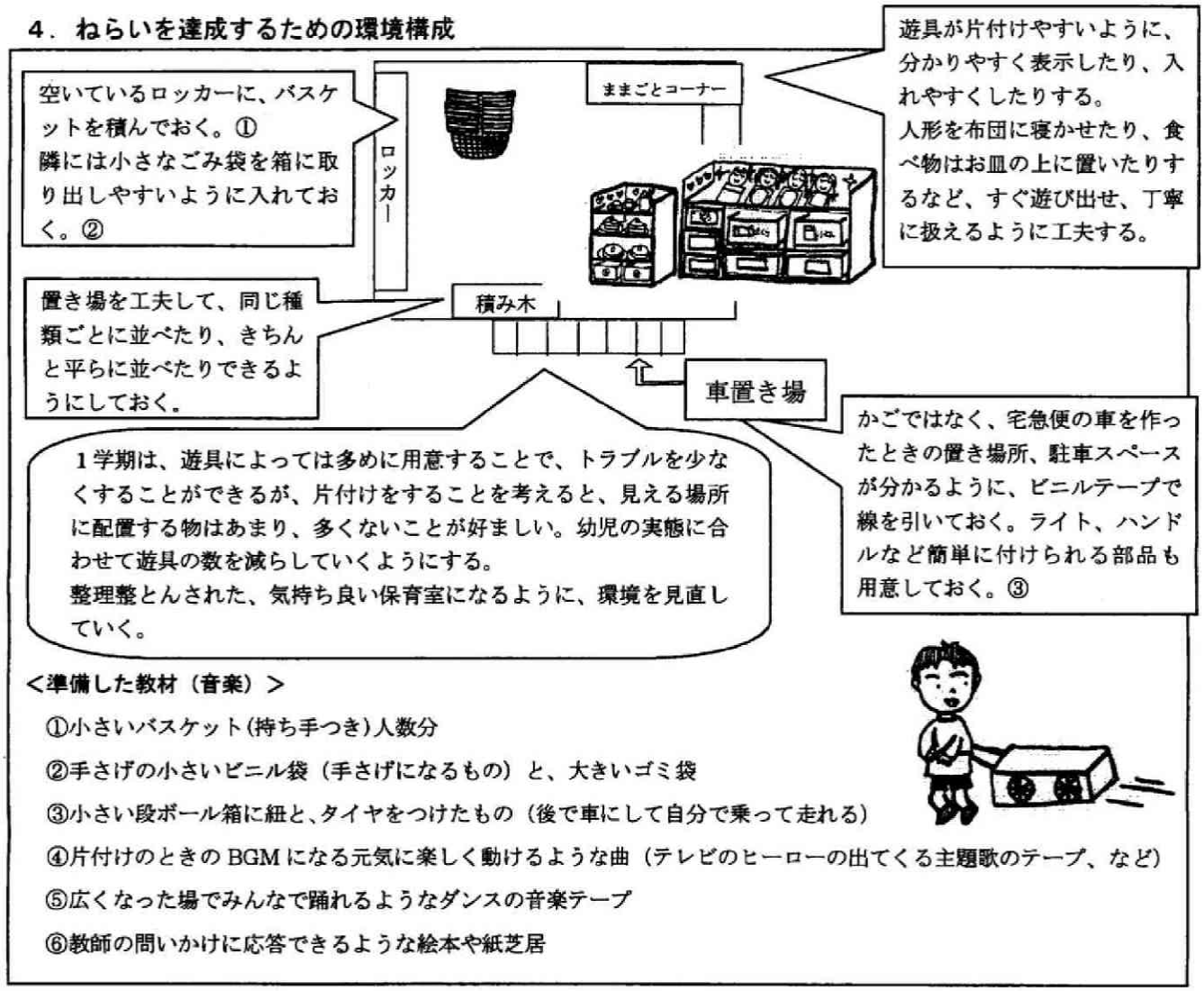
２．ねらい

使った物を片付けきれいになったことを気持ちが良いと感じる。（整理整とん・環境美化・物の活用）

３．展開

時　間	予想される幼児の姿	指導のねらい	主な活動	具体的な指導の手立て	評価
10：45	「片付けたくないな～まだ遊んでいたいのに‥」 「先生のところに持っていこう！」「宅急便でーす！」「面白い！また行ってこよう」	・遊んだあとは片付けることを知る。 ・宅急便さんの動きをしながら、片付けを楽しいと感じる。	・教師の言葉を聞き、遊びをやめる。 ・バスケットを持っておもちゃを集めに出かける。	・「そろそろみんなで本を見ようかな」など楽しいことが待っているから、片付けるということを知らせる。 ・「宅急便さん、荷物を集めてきてね」と、一人ずつに小さなバスケットを渡す。	・教師の言葉を聞き、遊びをやめているか。 ・片付けると楽しいことがあると感じられているか。
	「どこへ置けばいいの？」「ここへしまえば、いいんだ」	・遊具をしまう場所を知る。 ・落ちている小さな紙などを拾うことを知る。	・教師に次々遊具を届ける。 	・幼児の持ってきた物を「ありがとう」と一人一人から受け取る。	・教師に渡すことを楽しんでいるか。 ・面白いと感じ何度も繰り返しているか。
11：00	「ごみも拾うの？!」「ごみ収集車？おもしろそう！」 「すごい！部屋がきれいになった」「広くてうれしいな」	 ・部屋がきれいになって気持ち良いと感じる。 	・表示の場所に、遊具を置いていく。 ・ごみを拾って持っているごみ袋に入れる。 ・集めた物を大きな袋に入れる。 	・置き場所を教えたり、教師もしまったりしていく。 ・一人一人が持てるような手のついた小さい袋と、集めてきた物を入れる大きな袋を用意する。 ・一人一人と丁寧にかかわりながら、きれいになると気持ちがいいことを言葉にして知らせる。	・遊具の置き場所が分かって、しまおうとしているか。 ・落ちている物を集めることを楽しんでいるか。 ・部屋がきれいになったことを嬉しいと感じているか。
11：10	「絵本面白いなー」「みんなと一緒も楽しいな」	・みんなのいる場で先生の読んでくれる絵本を見ることを楽しいと感じる。	・みんなと一緒に教師の読んでくれる絵本を見る。	・楽しい雰囲気が伝わるような教材を工夫して取り上げていく。	・教師や友達と一緒に本を見る楽しさを感じているか。

4．ねらいを達成するための環境構成



＜準備した教材（音楽）＞

①小さいバスケット(持ち手つき)人数分

②手さげの小さいビニル袋（手さげになるもの）と、大きいゴミ袋

③小さい段ボール箱に紐と、タイヤをつけたもの（後で車にして自分で乗って走れる）

④片付けのときの BGM になる元気に楽しく動けるような曲（テレビのヒーローの出てくる主題歌のテープ、など）

⑤広くなった場でみんなで踊れるようなダンスの音楽テープ

⑥教師の問いかけに応答できるような絵本や紙芝居

教材・その他

・楽しい雰囲気の中で片付けができるような活動を工夫する。

・保育室が片付けやすい環境になっているかを見直し、分かりやすい表示や整理しやすい遊具の配置、すぐに遊びだせる様な遊具の置き方に心がける。

・片付けの時間を、幼児一人一人との触れ合いの場としてもとらえ、教師に遊具を運んで来て、声をかけてもらうことを嬉しいと感じられるようにしていく。

・BGM として楽しい音楽をかけたり、ヒーローの音楽をかけ、なりきって動けるようにしたりする。同じことを何度も繰り返していくことで楽しんで身に付けていく幼児と、飽きてしまってやらなくなる幼児がいるので個に応じて様々な片付け方を工夫しながら、楽しんでできるようにする。

規範意識の育ちに関して

・３歳児にとって、はじめ片付けの必要感はあまりないが、ヒーローになったイメージをもたせること等の工夫で、片付けも楽しいと感じられるようになる。（整理整とん）

・保育室の環境を見直し、物をただ置くのではなく、きれいに配置することで物を丁寧に、大切に扱うことを知る。（物の活用）

・教師の用意した表示のように片付けることで、片付けた後の部屋がきれいになって気持ちが良いと感じたり、整理整とんされていることに気付いたりし、次第に片付けや整理整とんの意味が感じられるようになる。（環境美化）

指導事例２「Ａさんへの感謝の気持を伝える」（高齢者に親しみの気持ちをもつ）

1．幼児の実態（ねらい設定の理由） **５歳児９月**

本園では、ほとんどの幼児が核家族であり、祖父母との同居率は６％に満たない。休日などに祖父母を訪ねた話をする幼児もいるが、日常生活の中で高齢者とかかわる機会もほとんどなく関心や親しみをもつ様子も見られない。高齢者とかかわり、楽しい経験をすることで、親しみの気持ちをもったり、身近に感じたりできるようになると考える。

2．ねらい

・高齢者とのかかわりを通して親しみの気持ちをもつ。（生命尊重・礼儀）

3．全体の展開

高齢者に親しみの気持ちをもつ段階を以下のようにとらえる。 （表１）

展開	ね　ら　い	主　な　活　動	資　料　・　教　材
① 9/7	身近な高齢者の存在を意識する。	・「祖父母の会」に向けてプレゼントを作る。 そのことで自分の祖父母への意識をもつ。	・絞り染めの手ぬぐい製作
② 9/12	高齢者へ関心をよせる。	・お話「ねずみさんのもうふ」を通して祖父母の存在を再確認する。 ・高齢者の知恵や力の大きさに気付く。 ・「祖父母の会」があることを楽しみにする。	・教師が用意したお話「ねずみさんの毛布」 ・高齢者の作ったくす玉 ・手ぬぐいで作った巾着 ・「祖父母の会」のプログラム
③ 9/14	高齢者とのかかわりを楽しみ、親しみの気持ちをもつ。	・「祖父母の会」への参加の仕方や一緒に遊ぶ時のマナーを考える。 ・「祖父母の会」に参加して、高齢者とのかかわりを楽しむ。	・高齢者の特技を見る ・高齢者と一緒に楽しむ遊び （お手玉、折り紙、剣玉、カルタなど）
④ 9/17	プレゼントを渡し、喜んでもらうことで満足感を味わう。	・敬老の日に渡すプレゼントに添えるメッセージを考える。 ・プレゼントを届ける。	・　メッセージカード ・　メッセージカードを添えたプレゼント
⑤ 9/22	高齢者とのかかわりの中で、自分のできることを考えて取り組む。	・プレゼントを渡したときの気持ちを伝え合う。 ・地域の高齢者の方に喜んでもらえることを考えてかかわる。 ・高齢者にあいさつをしたり、話をしたりする。	・地域センターでの高齢者との交流

５　展開５（９月２２日）「身近な高齢者との心の交流」

＜実際の幼児の姿＞

幼稚園の環境ボランティアでもある高齢者の Ａ さんに自分たちの作ったプレゼントとメッセージカードを渡す。メッセージカードには「いつもようちえんをきれいにしてくれてありがとう。」「お掃除をお手伝いしてくれてありがとうございます。」等のメッセージと絵が添えられていた。これを受け取った Ａ さんは、昼食前に集まっている幼児に話をする。

「このような素敵なプレゼントを頂きありがとうございます。私は今年で７０歳になります。こうしてプレゼントを頂き嬉しい気持ちになれました。ここで皆さんに会えてご縁があったからこそだと感謝しています。・・・これからも頑張りますので、皆さんも立派に大きくなってください。」とつぶやくように話をされた。

子どもたちはとても静かに話を聞き、Ａさんが話し終わると同時に一人、二人と自然に拍手が起こり、全員に静かに拍手が広まっていく。・・・とても温かい雰囲気が室内に広がる。

規範意識の育ちに関して

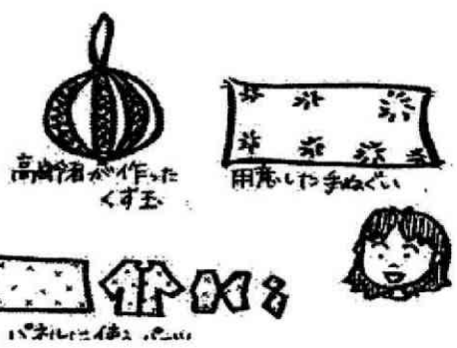
・　活動前は高齢者に対して、かかわりや親しみが薄かった幼児だが、表１の展開１から展開５までの指導を通して、高齢者に関心をよせる姿が見られるようになる。（生命尊重）

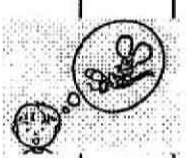
・　高齢者にかかわり親しみをもつことは、家族や社会と自分との関係やかかわりへの認識につながり、あいさつなど礼儀作法を通して規範意識の基盤になっていくと考えられる。（礼儀）

4. 展開2（9月17日）「ねずみさんのもうふ」のパネルシアターを見る

予想される幼児の姿	指導のねらい	主な活動	具体的な指導の手だて	評価
「祖父母の会が楽しみだな」 「おじいちゃんと一緒に遊びたいな」 「早くプレゼントを届けたいな」	・「祖父母の会」の日にちや会の内容を知らせ、期待感がもてるようにする。 	・「祖父母の会」が近づいていることを知り、楽しみにする。 ・自分の作った手ぬぐいを渡すことを楽しみにする。 ・「祖父母の会」への参加の仕方を理解する。	・自分の作った手ぬぐいを祖父母にプレゼントすることを楽しみにできるように（いろいろな届け方があることを知らせ）話をする。 ・幼児が見てみたいと思うように知らせ、じっくりと見える位置に誘導する。	・「祖父母の会」が近づいていることを意識して、楽しみにする。
「どんなお話なのかな」 「見てみたい」	・教師が用意したお話に興味がもてるようにする。 ・話の内容・展開の面白さや細かな変化を理解できるようにする。	・教師の話を静かに聞いて理解する。	・内容を理解しやすいように、話し方を工夫したり絵をじっくり見せたりする。 ・布からくるみボタンになるまでの様子をパネルで理解しやすく見せていく。	
「今度は何ができるんだろう」 「おじいさんってすごいな」 	・話の中でねずみのおばあさんのしたことを振り返って意識できるようにする。 ・くす玉を見たときの子どもたちの気持ちを思い起こさせ、高齢者の知恵や技術など力の大きさを感じ高齢者への関心が深まっていくようにする。	・お話「ねずみさんのもうふ」を見て、話の内容を理解する。 ・実際に、変化の様子を再び見て、再認識する。 ・くす玉やパネルを見て高齢者の力を具体的に知る。	・先日幼児が持ってきたくす玉を実際に見せることで、高齢者の力を理解しやすくする。 ・幼児の思いを聞く。 ・教師自身の高齢者の思い出を手ぬぐいを使って伝える。	・お話の内容を理解する。 ・お話の中でねずみのおばあさんがしたことを理解する。
「おじいちゃんやおばあちゃんはすごいな」 「えらいな」				
「おじいちゃんやおばあちゃんと遊ぶ日が楽しみ」 「早く“祖父母の会”の日が来るといいな」	・高齢者とのかかわりを楽しみにできるようにする。	・「祖父母の会」の内容を知る。	・高齢者とかかわることへの期待感がもてるように「祖父母の会」の内容を伝える。	・高齢者とかかわることに期待をもつ。

使用した教材・その他





パネルシアター「ねずみさんの毛布」
（あらすじ）

１匹の子ねずみが生まれたときから使っていた、毛布を、ねずみの成長の中でねずみのおばあさんが、次々に、作り変えてくれる。毛布で作ったベストが小さくなると、子ねずみは、「おばあさんなら何とかしてくれる」と言っておばあさんの所に持って行く。

すると今度はベストをベルトに・・・次々に知恵を出して、子ねずみの満足できる物を作り出してくれる。

Ⅵ　研究のまとめ

私たちは、保育所での乳児期の生活から、小学校１年生前期までの発達の流れをとらえ、乳幼児期から児童期への一貫した規範意識の育成に関する指導内容・方法について研究開発を行ってきた。そこで、明らかになったことを以下にあげる。

１　規範意識の高まりについて

乳幼児期の集団生活の場である『保育所・幼稚園』で、子どもたちは人として知っていなくてはならないことの『原点』を経験している。いつの時代でも変わらない幼児期に育てておくもの（人への信頼感、存在感をしっかりはぐくむこと・健康な生活リズムを作ること・自分からしようとする意欲を育てること・人とかかわる力を育てること・自分ができるという感覚を育てること・優しい心、思いやりの気持ちをはぐくむこと・感性、驚き、創造性を育てること・知的好奇心を育てること）を教師がしっかりとらえ、指導していくことが重要である。その上で、幼稚園という集団の中で、人とかかわり、みんなが気持ちよく生活していくために、自分はどうすればよいのかを幼児なりに自覚させていくことが、やがては自律的な規範意識へとつながることが明らかになった。

２　規範意識を高めるための指導と指導計画作成

○　計画的な指導の必要性について

これまで幼稚園では、規範意識を高めるための指導として、そのとらえ方があいまいになりがちで、その場面や状況に応じた対処療法的な教師の援助を行うことが多かったように思う。研究を進める中で、教師が幼児の姿を正しくとらえ、発達に即し意図的・計画的な援助が必要であることを確認した。計画的に指導を積み重ね、学級全体に向けて指導していくことで、幼児はやがて自分で判断し行動し、他者を大切にしながら生活できる人間へと成長していくと思われる。

○　計画的な指導における配慮事項について

- 幼児期においては、教師がモデルとなり、正しい行動基準を示していく。
- 次第に、自分で考え自分で行動できるような指導法を工夫していく。
- 環境に意図性をもたせて、教材を準備することで、幼児自身に気付かせていく。
- どのような時期に、どのような内容を知らせていくかを、発達に応じて計画的に繰り返し指導していくことで、行動が習慣化され、幼児に規範意識が定着していく。
- 問題が生じたときに、具体的な場面を通して、原因は何か、どうすればよかったのか、今後どうしていけばよいのかなど、幼児に考えさせる指導も必要である。その際、幼児の考えを価値付けることを忘れてはならない。

３　指導の工夫と教材の開発の重要性

日々の指導は、ねらいを明確にした上で「幼児同士が考え、気持ちよく生活できること」への実現に向かっていくようにすることが大切である。そのためには、幼児自身の**気付き**・**理解**・**広がり**・**深化**へとつながるような指導や教材の工夫が必要である。

視覚的教材の活用
パネルシアター
絵本・紙芝居
ペープサート等

体験活動につなげる工夫
人とのかかわりの機会・ゲーム形式・オリエンテーリング等

環境の工夫
美的であること
動きやすいこと・身近でかかわりやすいこと等

教師の援助
問いかけの工夫
動線を考える
他の教師との連携
保護者との連携
園全体の意識の高まり

４　今後の課題

本開発委員会では、乳幼児期の集団の中での、規範意識を定着させる方法について、計画的な指導法を開発してきた。今後は家庭・地域においても、それが広く活用されるよう、連携や協力体制を作っていくことが大切であると考える。そのことが、規範意識をもって、自律的に行動できる幼児を育てることにつながると確信するからである。

また、規範意識のもち方の状況を的確に評価し、次の指導・援助に生かす評価方法の開発をしていくことも求められると考える。